

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

● 広葉樹材の集荷体制構築に関する説明会を行いました

家具に使用される広葉樹材は、国産材の資源量減少などにより、主に外国産材が使用されています。近年、国産広葉樹材の資源量が充実しつつあること、外国産材の輸入が厳しくなりつつあることから、コンソーシアム会員で家具メーカーである飛騨産業(株)では、県産広葉樹材の活用を進めることとし、県産広葉樹用材を安定的に集荷する体制の構築に向けた検討を始めています。

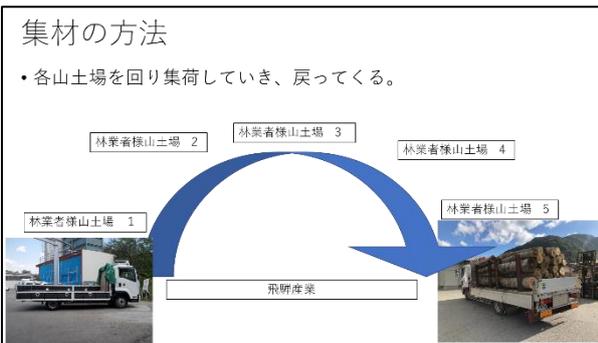
令和4年3月23日(水)に、(一社)森林施業協会の協力のもと集荷体制の構築に向けた説明会を開催しました。当日は、現地での参加のほか、コロナ対策としてオンラインでの同時配信も行い、会員25名が参加しました。

スギ・ヒノキ人工林が施業の中心となる中、広葉樹材は量がまとまらないため、供給が不安定で出材コストがかかります。そこで今回の取り組みでは、飛騨産業(株)の車両が県内で広葉樹が出てきた山土場を順に巡って集荷していき、県内を一周することで量を確保ながら出材コストを低減することを目指しています。

多くの素材生産者が参加することで、より効率的・効果的な集材が可能となることから、少量でも施業の中で広葉樹材が出てくる素材生産者の方におかれてはご協力願います。

なお、現在の集荷対象は、ナラ、ブナ、クリの3種で、材の寸法は末口径26cm以上、長さ2.1m(1mからでも可)となっています。

買い取り条件や、集荷の依頼など詳細を知りたい方は、飛騨産業(株)の担当者を紹介しますので、事務局へお問合せください。



今回の集材材料予定

- なら、くり、ぶな の3樹種



材料の品質基準

径級

- 檜については28以上(ブナ、クリについては26以上)

● 作業者同士の現場視察・意見交換会を行いました

木材生産改善委員会では、「改善実施プロジェクト」として、木材生産現場で発生している課題を整理し、改善計画を立て、組織内で合意形成を図りながら改善を図る活動を行ってきました。

今回、この活動の一つとして、「改善実施プロジェクト」に参加する事業体間で相互に現場を訪問し、視察・意見交換を行う取組みを開始しました。この取組みでは、日頃、横の連携が少ない事業体の現場作業者が交流することで、互いに安全性や効率性を高める対策や工夫を学び、さらなる作業の安全性や効率性の向上を目指しています。

今回は第1回目として、令和4年1月18日（火）に七宗町地内で現場視察・意見交換を行いました。

入場時の危険予知活動（KY活動）を行ったり、作業班の構成や役割を聞き取ったり、実際の作業を確認することで、他の事業体の安全管理や効率性を高める取組みを共有し、個々の事業体の改善につなげることができました。

今後も、こうした取組みを継続し、事業体間での安全性・効率性の向上に取り組む予定としています。



視察の様子



現地での聞き取りの様子



意見交換の様子

● 試験機器等の利用料を助成しています

コンソーシアムでは、特別会員および一般会員の皆様へ、県立森林文化アカデミー及び県森林研究所の開放試験機器等の利用に対する助成金を交付しております。助成額は利用料の半分、上限10万円/年で、試用できる機器には木材乾燥機、実大強度試験機、タワーヤードなどがあります。（詳細はホームページをご確認ください。）

ぜひ積極にご活用ください。なお、助成を受けたい場合、まずは事務局へご連絡ください。



森林文化アカデミーの有する
実大強度試験機・接合部強度試験機

コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

発行：岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局（岐阜県立森林文化アカデミー内）
〒501-3714 美濃市曾代88 / TEL:0575-35-2535 / FAX:0575-35-2529
E-Mail: gifu.shinrin.consortium@gmail.com